

令和 3 年 4 月 16 日

(※受付番号 )

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
721642

代表者 校園名： 大阪市立南港桜小学校  
 校園長名： 稲谷 哲也  
 電 話： 0666130160  
 事務職員名： 木谷 友亮  
 申請者 校園名： 大阪市立南港桜小学校  
 職名・名前： 教諭・島田 裕美  
 電 話： 0666130160

## 令和 3 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ		子どもが学ぶ・子どもが学び合う授業づくり ～だれ一人見捨てず学び合う子どもの育成～		
3	研究目的		<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>本校児童の課題は、本校の児童は自分の言葉で発表したり、友だちに自分の意見を伝えたりするのが苦手で学びが深まらず、教師主導の授業が多くなってしまうことである。そこで、自分の考えをもち自分の言葉で伝える力や、意欲を持ち学ぶことに前向きな子どもの育成をテーマとし、昨年度まで研究を続けてきた。そこで、学び合いの定義や、学び合う課題設定の在り方、国語以外の教科での学び合いの在り方について反省を得た。</p> <p>今年度は、教科の枠にとらわれず、子どもたちが自ら学び合い、高め合う姿を目指し、研究を進めたい。そのため、だれ一人見捨てず学び合う子どもの育成をテーマとし、学び合いや対話のスペシャリストを招き、子どもたちが学び合いを体得するとともに、教職員の資質向上を目的とする。</p>		
4	研究内容		<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>昨年度は、『対話』に焦点をあて、対話への意欲を高める指導の在り方や、対話を深める課題設定について、国語科を中心に行なうことができた。子どもたちは、個の空間の確保が優先される状況の中でも、「友だちとつながりたい、対話したい」という意欲に溢れていた。研修を通して、子どもたちが「話したい、聞きたい」と前のめりになる国語科の授業には、教師の確かな教材分析に支えられた問いや課題づくりが重要であることを学ぶことができた。また、子どもが自分が納得する答えや理由を求められる問いや、子どもの考えが多様に出る課題を設定することで、より子どもたちが対話に前のめりになることを学ぶことができた。</p> <p>しかし、国語科についての学びに特化した研究となり、教科の枠を超えた学び合いの在り方については研究が深まらなかった。</p> <p>今年度は、2年間の成果である「自ら自分の言葉で伝え、友だちの考えを聞きたいと学びに前のめりになる」子どもたちとともに、だれ一人見捨てない学び在り方を国語科の枠にとらわれず様々な教科で体現できるよう研究を続けたい。</p> <p>そのために、学習の得意不得意や、障がいの有無に関わらず、すべての子どもが参加し高め合える学級づくりや授業づくり、課題の設定の仕方について実践を重ねて研究を深めていく。また、研究のさらなる深化や新たな方向性を探るために、昨年同様に他府県の研究を視察したり、講師を招いたりして本校の児童の実態に即した学び合いのあり方を考えていく。視察については、子たちが多様性を認め合い、子どもが自立することを目指すイエナプランを取り入れた学校への視察も行いたい。講師と子どもたちのまなびについては、「その道のプロ（本物）」との出会いを大切し、多くの大人と関わる機会を設けたい。</p> <p>さらに、校内に自主的な研修の場を設けることで、大人同士も学び合い、互いに実践を交流し、教職員も多角的な見方・考え方方に触れるようにする。南港地区の教員の資質向上のため、公開研究を積極的に発信していく。</p>		

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

721642

代表校園

大阪市立南港桜小学校

校園長名

稻谷 哲也

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4月 研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討        5月 教員・児童へのアンケート作成、実施、分析        6月 教材分析・研究授業・講演        7月 前期のまとめ        8月 軽井沢風越学園視察        9月 教材分析・研究授業・講演        11月 教材分析・研究授業・講演        1月 教材分析・研究授業・講演        2月 研究のまとめ、教員・児童へのアンケート実施・分析        筑波大学附属小学校視察・公開研究参加</p> <p>上記とは別に、月1回教職員が集まり学び合い（サークル）を行う。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<b>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</b>および<b>教員の資質や指導力の向上</b>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p><b>【見込まれる成果1】</b>        ○他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p> <p>『検証方法』        経年調査の「学校の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか」に肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果2】</b>        ○他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p> <p>『検証方法』        「学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている」の保護者の「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を90%以上にする。</p> <p><b>【見込まれる成果3】</b>        ○他者や社会とともに生きていくための基礎をはぐくむ。</p> <p>『検証方法』        教育アンケートにおいて、「自分で考えて、自分から動くことができている」の子どもの「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える割合を90%以上にする。</p>

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

721642

代表校園

大阪市立南港桜小学校

校園長名

稻谷 哲也

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果4】 ○学習意欲を高め確かな学力を確立し、生涯にわたる学習の基礎を培う。</p> <p>『検証方法』 教育アンケートにおいて、「授業はよくわかる」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を90%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果5】 ○教職員の資質・能力の向上</p> <p>『検証方法』 研修会アンケートにおいて、「研修の満足度」の割合を90%以上にする。</p>				
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 <u>報告書提出日（令和4年2月25日）までに必ず行ってください。</u> ○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="414 979 1050 1046"><tr><td>日程</td><td>令和 4 年 2 月 4 日</td><td>場所</td><td>大阪市立南港桜小学校</td></tr></table> <p>◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。 南港地区の小中学校との共有を図る。</p>	日程	令和 4 年 2 月 4 日	場所	大阪市立南港桜小学校
日程	令和 4 年 2 月 4 日	場所	大阪市立南港桜小学校			
8	代表校園長のコメント	<p>これから社会を見据えて、今回の学習指導要領ではめざす資質・能力を、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱に再整理された。中でも子供たちが生涯にわたって能動的に学び続ける能力を身につけていくよう学校教育では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していく必要がある。</p> <p>本研究がテーマとする「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業づくり」は、正に主体的・対話的を柱とした授業研究であり、日々の研究実践を教員が振り返りながら、子どもに視点をあてた授業のあり方を追究するものである。</p> <p>本年度は、昨年度取り組んで得た成果や課題を踏まえて深化・充実を図っていくものであり、教員による自主的な学びの意欲を継続して高めていく、教員自身が成長していくことができる取り組みである。</p>				